

新河岸駅周辺地区整備事業

－No.2 川越市－

【事業の内容】

現在の東武東上線新河岸駅は、西口のみ地上駅で駅前広場等も未整備となっています。このため、南北に走る鉄道で地区が分断され、東側から駅利用するための安全な経路が確保されておらず、周辺の土地利用も低い水準にとどまっています。

本事業では、東西の駅前広場、それを結ぶ自由通路と橋上駅舎を整備し、東口を新たに開設します。併せて、駅前広場と幹線道路を結ぶ駅前通り線を整備し、交通結節点としての拠点性や交通ネットワークの利便性の向上を図ります。

【事業年度】

平成 27 年度～平成 29 年度

【予算額(千円)】

1, 091, 133 千円 (平成 28 年度)

【財源】

社会資本整備総合交付金（国）等、一般財源（市）

【事業実施に至った背景・経緯】

新河岸駅周辺地区は、鉄道や道路により東京方面と強い結びつきを持つ交通利便性の高い地区となっていますが、基盤整備等が進まず、生活環境や防災問題が地域の課題となってきました。東口の開設を含めた新河岸駅周辺地区の整備につきましては、その整備手法等について住民や鉄道事業者と協議を重ねてきました。

平成 21 年度に行われた住民アンケートで、都市計画道路と地区計画によるまちづくりに多数の賛同を得たことを契機として、都市計画決定の手続きや自由通路と橋上駅舎を整備する計画が本格化し、現在、平成 29 年度の完成を目標に事業を推進しています。

【事業のPRポイント】

新河岸駅は、約 24,000 人/日の乗降客数がある川越市の南の玄関口です。東側には、江戸時代から明治初期にかけて舟運が隆盛した新河岸川が流れ、河岸場跡があり、名称の由来にもなっています。

事業に際しては、こうした歴史的背景を踏まえ、今も現存する元船問屋の面影を、地域の顔となる自由通路と橋上駅舎の外観に取り入れました。地域の特色を反映させることで、住民には親しみやすく、来街者には魅力的に映る施設としています。

また、併せて整備される東西の駅前広場と駅前通り線により、幹線道路から駅までの連続した歩行空間が確保されます。駅利用の安全性と利便性が向上するとともに、沿道の地区計画に基づく土地利用を増進し、良質な居住環境を備えた市街地の形成が図られます。

【事業実績・成果・今後の展開】

平成 23 年度に東西の駅前広場と駅前通り線が都市計画決定されたのを皮切りに、用地取得と並行して、自由通路と橋上駅舎の設計を進めてきました。平成 25 年度には住民合意に基づく地区計画が定められ、平成 27 年度には東口の駅前通り線が完成し、自由通路と橋上駅舎の工事にも着手しています。

平成 28 年度は、自由通路と橋上駅舎の工事を継続するとともに、西口の駅前通り線、東西の駅前広場の工事に着手し、平成 29 年度内の供用開始を予定しています。

これら駅周辺の整備は鉄道で分断された地区を結び、駅を中心とした地域コミュニティの発展を促進するものと考えています。整備に併せて住民と連携したまちづくりを進め、地区全体の活性化に繋げていく考えです。



〔 連絡先 〕

新河岸駅周辺地区整備事務所 整備推進担当 049(244)5588